

談

dan



祖母の言葉を忘れず 笑顔で女優業やOL

愛と浄化の歌を歌いたい②

豊岡厚恵さん

とよおか・あつえ

シャンソン歌手



——長い道のりではあったけれど、回り道ではなかった。少し謎かけのようでもありません。歌と出会ったのが遅かったということなんでしょうか

豊岡 いえいえ、歌はもう小さなころから好きで。手に持ったものを何でもマイクにして歌うと、周りの大人たちが喜んでくれる。それがうれしくて、「歌手になる」って無邪気に、でも真剣に思っていました。中学生の時は、当時人気のラジオ番組「ヤンタン歌謡選手権」にも出たことがあるんですよ。

——中学生で！ 筋金入り

じゃないですか。何を歌ったんですか

豊岡 石川ひとみさんの「くるみ割り人形」を歌いました。部活はコーラスのソプラノで、もう歌ばかり。音楽の成績は良くはありませんでしたが、高校に入ると「スター誕生」のオーディション。3年生の時に別の民放のオーディションを受けたら最終選考の10人に残って、東京の大手芸能会社に特待生合格！ 大学受験は眼中になくなりましたね。あとは東京へ行って歌の勉強して、デビュー！

——むしろここまででは順風

満帆

豊岡 と思ったら。それまで「よくやるね」と言ってくれていた父親が、私の将来を心配してか猛反対！ そのショックと言ったら。私は行動力はありませんが、反対を押しきって行く勇気がなかったんです。いったん歌の夢を封印してしまいました。

——普通はそこで、母親を味方につけつつ泣きながら父親を口説いて何とか上京して、というストーリーが定番かなと

豊岡 そうはなりません。幼いころに祖母からも

らった3つの言葉がずっと支えになっていました。「あっちゃんね女の子だからきれいになりたいでしょ。そしたら心を美しくしなさいよ」「どんなに些細なことにも喜んで通らせてもらいなさい」「いつもにこにこ笑って陽気に通らせてもらいなさい」です。無理をするのはよくないんです。

——できることを無理なく、笑顔を忘れずにがんばる、ということですね

豊岡 そうですね。いまでもその深い言葉は私の中に生きているんです。祖母を思って書いた詩に曲をつけてもらったセカンドアルバムにつけたタイトルも「あなたのほほえみ」でした。

話は戻りますが、当時それでも夢はあきらめきれません。そこで大阪のアクタープロの門をたたいたら、スクリーンに特待生で入れたんです。授業料も免除で、やがてテレビドラマに出演できたり、リポーターとしてもお仕事をさせてもらえたりするようになったんです。

——やはり自然体がよかったですね

豊岡 とところが家庭の事情でこれも途中で断念せざるを得なくなりました。マネジャーとも相談して女優をあきらめ、機械メーカーの営業事務の職を得たんです。初めてのOLです。



...continued

聞き手 藤浦淳 / 撮影 門井聡